

2007年12月18日

2007年度
基礎水理シンポジウム

水工学委員会 基礎水理部会

シンポジウムの趣旨

- 本シンポジウムでは、基礎水理に関わるテーマを毎年二つ選び、これに関する講演と中身の濃い議論を行い、該当するテーマに関する本質的な部分についての理解を深めるとともに、未だ残されている研究テーマや問題点について再確認することを目指しています。
- 若手研究者や大学院生の参加を歓迎し、次代を担う人たちに各テーマに関わる研究のおもしろさや現状あるいは今後に向けての展望などを伝えていくことも目的のひとつとしています。
- シンポジウムの運営は基礎水理部会で行いますが、部会のメンバー以外の多くの方々の参加を求めています。

- 今年度は準備の都合などから変則的な運営の仕方となりましたが、次年度以降は講演を公募するなど今年とは異なった形式の会となる予定です。

【第1のテーマ】 都市における氾濫流とその解析

座長：関根 正人（早稲田大）

9:30 ~	9:35	開会の挨拶
9:35 ~	9:45	第1のテーマに関する概略説明
9:45 ~	10:25	中川 一（京大防災研）：基調講演 「氾濫流とその解析 –現状と今後取り組むべきこと–」
10:25 ~	11:00	重枝 未玲（九州工大） 「都市域を対象とした包括型氾濫解析モデルの開発」
11:00 ~	11:10	休憩
11:10 ~	11:45	川池 健司（京大防災研） 「『統合型氾濫解析モデル』と今後の課題」
11:45 ~	12:20	内田 龍彦（広島大） 「任意の境界形状を評価できるデカルト座標系浅水流モデルと下水道を考慮した氾濫統合解析手法の開発」
12:20 ~	12:30	第1のテーマに関する総括
12:30 ~	13:30	昼休み

【第2のテーマ】 流砂

座長：里深 好文（京都大）

13:30 ~	13:40	第2のテーマに関する概略説明
13:40 ~	14:20	江頭 進治（ニュージェック）：特別講演 「河川整備計画における流砂現象評価の重要性」
14:20 ~	14:55	藤田 正治（京大防災研） 「浮遊砂拡散理論に関する問題点と新たな展開」
14:55 ~	15:05	休憩
15:05 ~	15:40	関根 正人（早稲田大） 「Bed material loadの流送過程における問題点と新たな展開」
15:40 ~	16:15	竹林 洋史（徳島大） 「混合砂河床の取り扱い方法について」
16:15 ~	16:25	第2のテーマに関する総括
16:25 ~	16:30	閉会の挨拶

第1のテーマ



都市における氾濫流とその解析

内水氾濫

大都市の中心市街地などの高度に都市化された地域 .

氾濫水の流れは街路に限定できる .

下水道の適切な考慮が重要 .

地下空間が存在し , 浸水の危険あり 避難誘導

外水氾濫

地方都市あるいは過疎が進む地域 .

空地が多く存在 .

街路以外の水の流れが重要 (複雑な計算格子) .

堤防の決壊 .

河川における水の流れと堤内地でのものとの連続性 .

疑問点

- 内水と外水の氾濫を同一のモデルで解析しようとする必要はない？
- 抵抗則に現れるマンシングの粗度係数をどのように与えるのか？
- 解析結果を検証するためのデータの不足をどう解消する？
- どこまでモデルを精緻化していくのか？